

2023年度 学校評価票(総括)

**I. めざす学校像(ミッションステートメント「建学の精神」)(長期的目標)**  
 本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です。自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること。「愛」とは互いに任せ合いながら他者と共に生きることです。この自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。

II. 最重点目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. 建学の精神を日常にする	本校のキリスト教精神に基づく教育方針が生徒に十分理解されるよう努める	教員自ら毎日の礼拝を大切にし、その姿勢を生徒に示していく	働き方改革の下で教員の心身の健康に留意しながら現場の意見を積極的に吸い上げ、よりよい職場環境にする	○	職員会議においても建学の精神の重要性を発信し、夏期研修においてもその部分に時間を割いた。また、教員面談を実施し、より良い職場環境の実現に結びつけることができた
2. 大学合格実績の向上	大学入学共通テストに対応できるよう各教科、各コース、進路指導部が連携して綿密な進路指導を行う	共通テスト・難関大学対策講習を実施する。また、今年度より設置したS選抜コースの充実を図り、次年度へ向けて周知徹底する	難関国公立・難関私大現役合格率を前年度比増を目指す	○	特に難関国公立大学の実績は顕著なものであった
3. いのちの教育のさらなる推進	生命の尊さ、かけがえのなさと共に、人知を超える「いのち」の神秘を知る心を育てる	いのちに関連させたプログラムを実行する	生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう学校評価アンケートでの評価を一つの指標とする	○	新しいことはできなかったが、いのちの大切さを伝えることができた

III. 中期的目標(3年が目安)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. キリスト教精神をたいせつにする	キリスト教精神への理解と共感の幅を広げる。またキリスト教教育・行事等を通じ、他者と自分自身を大切にできる心や寛容の心を育む	①朝の礼拝を大切にする ②キリスト教精神に基づく行事を大切にする	①朝の礼拝の静粛を保つ ②生徒や教職員の積極的参加		本校の見学の精神を大切にすることができたと感じている。これからも、教育の中にキリスト教精神を取り入れていくつもりである
2. 授業をたいせつにする	①授業時間の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展	①開始時刻と終了時刻の厳守 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展	①相互で確認 ②連絡方法の再検討 ③意見交換の充実	①△ ②○ ③△	①授業終了時刻前に教室を離れることが散見された ②クラスルームでの配信など、自習の指示は適切であった ③見学の受け入れ態勢が課題
3. 生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④提出物の徹底 ⑤インターネット上のトラブル防止 ⑥携帯電話の使用マナーの徹底	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻の防止 ④提出状況を通して、学力の向上や信頼関係の構築につなげる ⑤ネグティブを学ばせ人の気持ちを考えるよう指導 ⑥使い方を指導し、マナーの会得や学習時間を確保させる いずれの項目とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③担任指導の強化 ④反省文の回収 ⑤⑥問題件数の減少	◎	いずれの項目も適切に実施することができ、効果的な指導に繋がっている。近年では指導案件も減り、落ち着いた教育環境を実現できている。ただし、補導案件や三区総身だのみ違反は0にはならず、継続した指導が必要
4. 活発な自治会活動の推進	①自治会執行部・生徒会を中心とする各種委員会運営 ②学校行事の平常化と発展 ③学内における部活動の意義の確認と教員の働き方についての検討	①自主規律HRの年間計画作成およびHR委員会・文体連・評議委員会等の運営の指導 ②文化祭・体育祭・桃山学宿をはじめとした主要行事の平常化と教員作業チームの立ち上げ ③部活動業務の実情の把握と負担軽減に向けた方策の検討	①執行部・生徒会の年間計画作成 ②執行部および教員作業チームによる行事日までの工程表の作成 ③統廃合や新設を含めた「桃山学院としての部活動」の在り方(教員の業務負担と学外広報も包含)の指針を確立	①○ ②○ ③△	①自主規律は社会問題等に目を向けさせる取組みとなった。HR委員会や文体連も情報伝達の場として相応しいものであったと評価できる ②各種行事が再開の年となったが、執行部指導部ともに準備段階から当日に至るまで協力体制を構築できた ③教員人数が少なく、一部の部活動間に大きな負担があったと考える。教員人数と部活動の数のバランスが必要
5. 進路について	①探究活動に加えて、大学進学に関する自発的な情報収集力や行動力の養成 ②難関大学に合格するための学習効果や受験戦略の育成 ③学年ごとに行っている進路取り組みの共有	①進路HRやオープンキャンパスにおける生徒自身による取り組み ②希望制模試の受験や推薦入試への積極的な挑戦 ③進路HRなどで行った情報の蓄積	①教員による年間計画と生徒による実施レポートの作成 ②定期的な案内と教員対象の進路講演会への参加 ③次年度につなげる年間計画の作成	①△ ②△ ③○	①年間を通じた指導ができるように、前年度の取り組みが参照できるよう努める ②医学部の講演会は開いたが、今後は回数を増やしていきたい ③進路の取り組みは今後も蓄積していく
6. 中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上 ②行事の充実を維持しつつ、効率化を図る。 ③受験生の増加 ④生徒支援システムの構築	①授業力の強化と放課後の取り組みの充実引き続き取り組む ②ICTツールを駆使し、また、次年度の引継ぎも意識しながら、ワークフローを整理していく ③広報活動の充実・成績上位層の確保 ④生徒支援課との連携強化	①アンケートや外部模擬試験 ②次年度への引継ぎ資料を整える ③受験生の増加 ④システムがいかに構築されたか	①○ ②△ ③○ ④○	①模擬試験の結果では、負けじとも劣らない結果となった ②中学校全体としての引継ぎ資料はまだ十分に仕上がったとは言えないが、連携は十分に行われた ③過去最高の出願者数となり、また、一定の学力レベル以上の新入生の入学につながった ④まだ担任や学年によるものが大きく、システムの構築とまでにはならなかった
7. 入試広報の充実	建学の精神を広く広報する	国公立合格者数、一貫コースの大学合格実績のアピールを行う	北大阪急行延伸の箕面と豊中地域での説明会を実施し、広報を強化する	○	豊中市の受験者数を12名から32名に増加することが出来た
8. いのちの教育の推進	いのちについて知識を深める	いのちに関連させたプログラムを実行する	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを旨とする	○	久々に講演会でもでき充実した内容だった
9. キャンパスの整備	①キャンパスの整備につとめる	①施設の改善点等の把握 ②施設の充実	①教員からの意見等 ②生徒保護者の満足度などが得られるように努める	○	①アンデレ館書庫奥の戸棚の整理を実施。貸出制に変更 ②アンデレ館職員室入口に面談スペースを設置。第1会議室を多目的教室化

IV各学年別目標(中学職会・担任会)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
中学1年	①基本的な生活習慣の確立 ②学年全体の学力向上 ③問題行動へのチームでの対応	①遅刻・欠席をする者に対する声かけをし、規則正しい生活を身につけさせる。欠席が続く生徒には早い段階で電話連絡・家庭訪問をする ②中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底を行う ③問題行動に対し、担任だけ、教科担当だけで対応するのではなく、学年としてチームで対応する	①意業による遅刻数・欠席日数を例年より減少させる ②課題提出率の向上と模擬試験の成績向上 ③大小問わず、それぞれのケースに対する実際の対応	○	①体調不良による欠席は目立ったが、怠ける生徒はほとんど出なかった ②過去5年と比べても遜色ない結果であった ③反省文となる指導は多かったが、大きな問題は特になかった。STOCKに指導内容を入力することで皆が簡単に情報共有することができた

中学2年	①生活習慣の確立 ②学年全体の学力向上	①遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活を身につけさせる ②中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底	①遅刻数・欠席日数の減少 ②模擬試験、定期考査での成績向上	○	①安定した学校生活送ることができた。特定の生徒の遅刻・欠席も学年の終盤にかけて改善がみられた。 ②進学の中でも向上心を持って取り組む生徒が増えた。選抜は得意な教科を見つけ自信をもって取り組める生徒が増えた。進学の提出状況が依然課題である
中学3年	①学習習慣の確立 ②進路選択に向けた意識作り	①提出物、定期試験前後の取り組み、模試 ②大学見学、キャリアガイダンス等	①日々の提出物や定期試験前後の取り組みを確立することにより、自学自習ができる生徒を育て、それが結果につながるという成功体験をさせる。 ②夏の東京合宿時の大学訪問、キャリアガイダンスを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする	○	①勉強以外のことで成功体験を実感させることができた ②自分の夢を考えるきっかけになった生徒が多かった
高校1年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について一年間継続的に指導する。 ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。BYODに伴い、タブレット・スマホ・携帯電話の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援計画を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①日々の授業・定期考査を大切にし、その上で模試成績の向上を目指す ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯電話の扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①◎ ②◎ ③○	①定期考査ごとのやり直し課題や模試受験後の振り返りを通じて、復習の重要性を伝え、自己分析させることを各コースや各クラスで取り組んだので、継続して実施したい ②遅刻指導、スマホ・タブレットの指導はその都度こまめに実施したが、今後も繰り返し指導する必要がある ③特に探究活動については、今後より具体的な取り組みを検討して実践していくことを目指す
高校2年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、学力の向上を図り、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。タブレット・スマホの適切な扱い方を習得させる指導を強化する ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①模試成績の向上。 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯の扱い方を習得させる。 ③内容の充実を図る。	①◎ ②○ ③○	①模試ではS選抜コースが最上位層として厚くなり、また下位層を減少させることが出来た。 ②遅刻指導、スマホ・タブレットの指導は小まめにすることができたが、今後も必要性を感じる。 ③次年度の進路目標実現に向けて、さらに向上させていきたい。
高校3年	①進路目標の実現 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけ、生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む。 ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・タブレットの適切な扱い方を習得させる指導を強化する。生活習慣の維持に努め①の目標達成に繋げる。 ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う。	①生徒の第一志望合格 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、スマホ・タブレットの適切な扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①○ ②◎ ③◎	①目標を実現する生徒も多く、ある程度の達成が見られた ②難しさはあるが、スマホのルール設定は一定の効果があった ③必要な指導を行うことができた

V. 各コース目標(コース会議)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
一貫コース進学	①大学合格実績の向上 ②勉学だけでなく総合的な学校の満足度の上昇	①六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂。 ②HRや行事の充実	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績 生徒や保護者へのアンケート	○	進学実績は例年よりも、数、質ともに向上した
一貫コース選抜	①大学合格実績の向上 ②勉学だけでなく総合的な学校の満足度の上昇 ③S選抜コースの成功	①六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂 ②HRや行事の充実 ③英数S英数コースとの連携強化	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績 生徒や保護者へのアンケート	○	11期生は中学入学時の学力が厳しい学年であったが、6年間で実力を伸ばし、例年同様の結果を残した
文理コース文理	①国公立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普段の授業、模試の活用等 ②普段の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国公立25% 難関私立大50% (文理全体に対する延べ人数合格率) ②英検2級以上の取得率の上昇 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	△	国公立は18%にしか達しなかったが、第一志望が高い目標だったため、前期出願がチャレンジ大学が多かった
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	△	近畿大会へは3/5クラブが出場 全国大会へは1/5クラブが出場 国体へは2/5クラブから出場 国際大会に1名出場(水泳部)
英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格 コースの取り組みの見直し	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策 難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果 【高3】①大学入学共通テスト結果 ②第一志望大学への合格率	△	勉強合宿の実施時期の見直しを行った。さらなる改善や徹底も含めて検討の余地あり

S英数コース	難関国立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格コースの取り組みの見直し	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策&難関国立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果 【高3】①大学入学共通テスト結果 ②第一志望大学への合格率	△	勉強会の実施時期の見直しを行った。さらなる改善や撤廃も含めて検討の余地あり
国際コースクラスA	①国際社会で通用する英語での論理構成力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定 ③特色あるカリキュラムの改良・発展	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験 ③高1高2における留学事前・事後教育カリキュラムや高3の外部講師を招聘した特別カリキュラムの検証と改良	①外部テスト(英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	△	③に関して十分な検証が行えなかった。来年度はこの点を十分にしていきたい
国際コースクラスB	①国際社会で通用する英語力での論理構成力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定 ③特色あるカリキュラムの改良・発展	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験 ③高1高2における留学事前・事後教育カリキュラムや高3の外部講師を招聘した特別カリキュラムの検証と改良	①外部テスト(英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	△	③に関して十分な検証が行えなかった。来年度はこの点を十分にしていきたい

VI. 各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
教務部	キャンパスプランの安定した運用成績などの正確な入力	ICT委員会等と連携し安定した運用を目指す。 新デジタル出席簿、見込み点の算出の確認	成績処理および高3調査書の発行	△	キャンパスプランへの入力ミスが目立つ。見込み点算出のシート、デジタル出席簿は有意義に活用されている
生活指導部	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ④②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	◎	いずれも生徒の成長に対し効果的に指導できた。特に第5回特別生活指導週間では、朝礼遅刻3回で遅刻反省文のキャンペーンを実施したところ、遅刻数が減少するなど成果が見られた
自治会指導部	①自治会執行部・生徒会を中心とする各種委員会運営 ②学校行事の平常化と発展 ③学内における部活動の意義の確認と教員の働き方についての検討	①自主規律HRの年間計画作成およびHR委員会・文体連・評議委員会の運営の指導 ②文化祭・体育祭・桃山学宿をはじめとした主要行事の平常化と教員作業チームの立ち上げ ③部活動業務の実情の把握(外部練習引率・休日勤務等)	①執行部・生徒会の年間計画作成 ②執行部および教員作業チームによる行事日までの工程表の作成 ③実情把握に基づいた適正な顧問配置および部活動数の適正化への検討	①○ ②○ ③△	①昨年度より各HRや行事の準備を前もってすすめることができた。年間計画は今後見直しを持つことができれば立案可能と考える ②行事がコロナ以前の形に戻り、年間を通じて多忙であったが、行事担当者との連携はできた評価している ③教員人数の不足により、適正化を諮ることは困難。クラブによっては顧問負担が大きかったことは否めない
進路指導部	①生徒・教員への進路情報や探究活動についての適切な提供 ②進路指導室の有効活用 ③三学年を縦断した進路情報共有	①進路関係の情報を整理して適切に配布・配信、探究活動の推進 ②担任による進路面談利用や面接練習の実施 ③進路HRの実施内容の開示と蓄積	①データ化を推進して分類・保存・蓄積 ②誰もが利用しやすい環境維持と整備 ③聞き取りや報告の習慣化	①△ ②△ ③○	①進路指導室に届いた生徒が参加できる活動等のお知らせを発信し続けた。次年度も継続する ②進路指導室が資料で溢れていた時期があった ③学年ごとに進路の取り組みを蓄積し、次年度に取り組みをつなげることができた

VII. 各委員会の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	国際コース独自の取り組み模索 国際コース改革における課題のクリア EP留学の周知 中国人留学生の一定数確保	①コロナウイルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②コース独自の取り組み(国際コース) ③渡米留学希望生徒の一定数確保(EP) ④入学内定試験の実施(中国人留学生)	①行き先をカナダに据えての実施を検討 ②平常授業に特色のある取り組みを取り入れる ③5名前後 ④夏休み終わりまでには国内外いづれかで実施	○	①台湾への1週間程度の留学を希望制で実施予定 ②Advanced Englishを新設 ③24年度よりターム留学、25年度より1年留学が3名に拡大 ④24年度は5名が入学予定
ICT委員会	・ICT委員会の業務整理 ・校内のICTインフラの整備、保全 ・教職員のICT利活用スキルの向上	・教務部、ICT委員会、ICT支援員、事務、その他のICT関連業務を仕分けし、ICT委員会の業務を明確にする。 ・F館職員室の有線LAN環境の整備、教員用Wi-Fi利活用の普及、新しいICT機器の検討や提案など ・デジタル採点、ICT機器、アプリ、グループウェアなどの利活用の促進	・ICT委員会の年間業務マニュアルを作成する ・年度内の整備、保全実績をまとめる ・デジタル採点利用率向上、他		・業務を仕分けし、ICT委員会の業務を明確化した。教務システム(CampusPlanは教務の管轄)、PCやネットワークのトラブル対応はICT支援員(株式会社NSD)の管轄とした ・生徒教職員のアカウント管理、デジタル採点サービスの管理等、管理者権限が必要な業務は一部の教員しか担うことができないため、ICT委員会が担ってきた種々の業務のほとんどが特定の教職員が担当することになる。委員の人員が多く設定されているが、任せる業務が多くないのが課題
入試広報委員会	建学の精神を中心とした広報活動に努める	大阪北部箕面・豊中と尼崎・西宮地域への広報活動		△	外部説明会への参加負担が一部の教員に偏った
いのちの教育委員会	①保健指導に関して生徒による保健活動を活発にする ②いのちの教育に関して「いのちの尊さや厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①行事での救護活動・保護犬活動・各種ポスター作成活動 ②AED講習・いのちの日・響プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	生徒保健委員会の実施内容 ・行事ごとの救護係等 ・保護犬活動 ・熱中症/感染症ポスター作成(中)	○	すべて実施することができ、いい成果が見られた
人権教育委員会	人権教育に関して社会に存在する様々な人権問題に関心をもち、理解を深める	人権HR、映画鑑賞会、啓発活動などの取り組み	各学年での人権教育の生徒からの感想文、教員からのフィードバック	○	人権HRや映画鑑賞は全て実施し、生徒・教員からの感想も良好であった 啓発活動はもう少し実施したいと思うので、日程を確保し内容を精査したい
宗教教育委員会	宗教教育に関して礼拝や祈り、各種行事を通して自他の尊厳を大切にすることを養う	礼拝・行事でのマナー向上	①礼拝・行事・講演会等の充実 ②PISTISの紙面充実		宗教教育に関して目的を達成していると感じている。また、ピスティスに関して協力者と共に良いものが作れていると自負している
公費助成委員会(新設)	①公費助成拡大の理念の普及・拡大 ②はがき運動・署名運動の拡大 ③署名数の増加	①従来からの取り組みの継続 ②従来の取り組みのさらなる充実 ③新しい取り組みの模索	①はがき回収枚数前年比+15% ②署名筆数前年比+15%	①△ ②△	①・②ともに目標数は達成できなかったが、無償化の流れの中でも昨年と同数を達成できたのは評価に値する

Ⅷ. その他委員会の目標(1)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
生活指導部(生徒支援)	支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	○	支援制度への理解と認識の強化は深まってきた。積み上げていける体制の構築が急務である
危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化 ②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展 ②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか	①○ ②○	定例の訓練を実施し、危機管理意識の育成に努められた
修学旅行委員会	①国内修学旅行の予算の検討	①業者の意見等を参考に委員会で検討	物価高騰を念頭に入れながら判断	○	2025年度入学生からの予算の変更(130000=160000)を決定した
カリキュラム委員会	新カリキュラムについてより理解を深める	教科中心にスムーズな移行を目指す	教科会議での意見交換等	○	新課程への移行にあたって、特に高3での授業時間数に対応するために多くの変更が必要となった
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	△	近畿大会へは3/5クラブが出場 全国大会へは1/5クラブが出場 国体へは2/5クラブから出場 国際大会に1名出場(水泳部)
予算委員会	①経費削減にさらに努める ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論を深める	委員会での振り返りをていねいにおこなう	○	適切に実施された
入試委員会		高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論をだす	△	ガイドラインの見直しは行わなかった
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の出ないよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	○	生徒の成長に対し適切に実施された
M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	2021年度に解散となったが、更なる改革を協議し必要な場合は再度発足させる	2021年度に解散となったが、更なる改革を協議し必要な場合は再度発足させる	△	発足させず。ただし、高校の探究学習のプロジェクトチームを発足させた

Ⅸ. 各教科の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	生徒の表現・思考力を高める教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定 ③小論文模試・小論文講座 ④ICT活用やアクティブラーニングも含めた新たな授業展開の共有	①新課程・新入試への対応。教員間の情報共有による安定した教育環境を整える ②小論文を教科を越えての学校としての取り組みにしてい	△	高2理系の古典探究の時間が減った中、どのように学力を担保するか
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた指導力の向上	①新過程・入試改革への対応検討 ②デジタル教材・データの蓄積・共有 ③教科指導力向上	①今後の入試制度・新過程に応じた授業内容の充実 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	①○ ②○ ③△	①入試制度改革、特に新課程に則した共通テストに対応するため、入試センターが発表した試行問題などを中心に教科内で分析と対策が練られた ②教科書採択の際に出版社から付随して得られるデジタル教材を中心に、電子黒板で活用できる教育教材の整備が行われた。また、入試問題データベースのイグザムを更新した ③なかなか皆、多忙であり、積極的に研修やセミナー等への参加が進んでいない
数学科	教科指導力の向上	①大学入試共通テストへの対応 ②数学オリンピック、数学甲子園などへの指導 ③教員同士による授業見学、指導法の研究会	①研究会への参加と情報の共有、共通テストの結果 ②数学オリンピック、数学甲子園などでの予選成績の結果 ③授業力向上・改善	①○ ②○ ③△	①教科主任が集まる会議に積極的に参加することで、情報交換できた。西村先生がかなり研究会に参加してくれていた。また、共通テストでも一定の成績を修めた ②高校2年生を中心に積極的に参加していた ③まだまだ改善の余地あり
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上 ICT機器の授業への活用	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を全員で担当 ④ICT機器を用いた授業を研究する	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②カリキュラムの検討 ③共通テストの結果 ④授業見学や、そのあとの反省会の充実	①○ ②△ ③○ ④△	①物理チャレンジ、化学オリンピックにエントリーした。特に化学では優秀な成績を修めた ②中学理科のカリキュラムについて再検討している ③高3教科担当者をよい結果を修めた。 ④反省会を実施できず
英語科	「大学進学実績の向上」へ向けた教科指導力の向上	①本校の最重要目標の1つ「大学進学実績向上」を踏まえた指導法の改善 ②大学入試へ対応するための教材研究 ③ICT教材の有効利用と指導法研究 ④英語に関する各種の検定試験(対策・検討など)への対応	①大学進学実績向上についての目標達成に向けた教科指導と研究活動ができていくか ②大学入試問題の分析 ③学習用ICT教材の研究を促進 ④ICT教材を有効活用し、教員一人が多数の生徒に効果的な対応をとることができるようにする		①定期的な授業見学と、各種研究科への出席による指導力向上に努めた ②大学入試問題を教員が率先して分析し、生徒への講習で還元した ③Weblio Studyやオンライン英会話を利用し、どのような利用方法が最適化を模索した ④Weblio Studyやオンライン英会話を用い、検定試験タイプの問題に全生徒が取り組むことができ、検定試験対策に割く教員のリソースを減らすことができた
保健体育科	教科指導力の向上	授業見学の強化	実技力がしっかりと身につけているか	○	積極的に授業見学がなされていた
芸術科	授業力の向上	授業見学、情報共有の強化	実技の指導力が高まっているか 生徒が楽しく芸術活動にとりくめたか	○	教員間で授業の進捗を確認しあい、よりよい指導方法を共有し合った
情報科 技術科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実 ③共通テストへの情報収集・授業での対応	①授業見学の強化 ②教材の改善・打合せの充実 ③各大学の対応をまとめ、教員・生徒へ情報伝達	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか ③性格で迅速な情報共有ができていくか	①△ ②○ ③△	①共通テスト対策に向けての指導力強化が必要 ②計画を常に見直し、改善して行けた ③教員間での情報提供がもっと必要である
家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実 ③コロナ後の調理実習の充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	○	調理実習の再開
宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①非常勤教員との意思の疎通を図る ②高1の総合(アンデレタイム1)で1~2コマ程度行う ③道徳の教科化への対応	他校事例などの情報収集や教科会議での振り返り。教務部との調整		非常勤講師との意思の疎通に難があり、かなり苦戦した一年であった。こちらからお願ひしても聴いてもらえ、困りはてた。様々な意味において、分り合える者同士で一つひとつ丁寧に進めて行きたいと願っている

Ⅹ. その他	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
職員会議	(1)会議の円滑化・時間短縮(2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか。	①○ ②○ ③○	①運営委員会案が否決されることもあったが、それは十分に議論なされた結果だと思われる ②可能な限り早めのレジュメ配信を行った ③守られていたと感じている
運営委員会	(1)会議の円滑化・時間短縮(2)現場の状況を把握し共有する	①議題の整理②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	①○ ②○ ③△	①意見交換に時間を要することもあったが十分に議論できた ②チャットなども利用し意思疎通が図れた ③意見交換に時間がかかり過ぎる場面もあった
M1プロジェクト	①各学年の模試などの学力推移の情報共有 ②S選抜コースの充実を図るとともに、進学実績向上のため新たな取り組みを検討する	①模擬試験の結果が出次第実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握 ②苦手分野の克服に関して情報交換	苦手分野を克服し、学力向上につながったかどうかを模擬試験ごとに検証する	△	会議自体は実施しなかったが、進路より随時各学年の学力状況を共有した
判定会議	①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	①○ ②○ ③○	①十分議論できた ②資料も適切に作成されていたので十分情報共有できた ③守られていた
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務内容の見直し ②校内全体の施設改修計画と合わせて、A館外壁改修の施工時期等の調整。中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①一人当たりの平均残業時間、対前年度(2022年度)比マイナス3% ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修への対応。A館等外壁改修の施工時期等の確定 ③予算志願者数・予算定員の確保	①△ ②○ ③○	①全体で増減はなかった。ただし、年度当初から、1年間、人員が整わないままに、全体でカバーし合って業務を遂行したことを考えれば、達成したと同様と思う ②年度末に計画していた改修が、業者の関係で繰り延べとなった。夏期休暇中での実施計画を更に増やすことを検討する。突発的な改修については対応できた。A館等外壁改修の施工時期については検討は進んでいるが、確定には至らなかった ③志願者数確保、定員充足
保健室	①感染症対策 ②外科対応における情報共有の徹底 ③自尊心の向上	①生徒自ら予防対策が実践できるよう指導、行事における対策の徹底 ②校内、保護者との連絡共有 ③来室時の対応や保健委員会活動の充実	①校内感染の抑制 ②情報共有の徹底 ③丁寧な問診と対応、委員会活動の充実	①△ ②○ ③○	①コロナ明け、体調不良者の来室も多く、インフルで学級閉鎖を検討することも多かった
図書館	①感染症対策 ②図書館利用と読書の推進 ③図書館登校生徒への対応の充実 ④将来の蔵書管理PC更新計画	①安全に図書館利用をしてもらえるように、状況の変化を考慮しつつコロナ対応の工夫を続ける。 ②図書館や図書館の資料を利用した授業を推進する。 ③図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する。 ④将来の図書館蔵書管理PCのあり方を引き続き検討する。	①生徒に安全に利用してもらえたか ②過去の取り組みとの比較 ③生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする。 ④蔵書データ等のクラウド保管の可能性などを継続的に研究する。	①○ ②○ ③○ ④△	④については、23年度には新しい情報はありませんでした。継続的に情報収集したいと思います
同窓会	中・高教員の会費徴収率の向上	該当教員にたいする声かけ	「桃蹊」配布時に実施	△	声かけを失念していたのと同時に、未徴収の方がどなたか事前に知る必要があると感じました
PTA	コロナ感染症の状況の変化を考慮しつつ、安全な活動を心がける	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者などで共有する。コロナ感染症への対応が緩和されつつある社会状況を考慮しつつ、今後の活動の在り方を保護者役員の皆様と共に検討する	PTA担当教職員、保護者役員の皆様による振り返り	○	保護者の皆様には積極的に関わっていただきました。ありがとうございました